

### はくく 人を育み文化を創造する生きがいのあるまちづくり

事務事業名	予算額(万円)	内容
通学区域調整審議会事務(新規)	70	市立学校の位置や規模の適正化、通学区域の調整に必要な調査や審議を実施
小・中学校施設管理事業(耐震補強工事、実施設計等)	2億4849	一関小学校、大原中学校耐震補強工事や他の小・中学校施設の耐震補強工事実施設計などを実施
統合大原小学校建設事業(新規)	1億8630	大原小学校と内野小学校の統合小学校整備に着手
弥栄・真滝統合中学校建設事業	6億7033	20年4月開校予定の弥栄中学校と真滝中学校の統合中学校整備を引き続き実施
大東給食センター建設事業	5億6526	配食対象地域を大東、東山地域とする学校給食センター(20年度供用開始)整備を引き続き実施
中学生の社会体験学習事業	126	市内全中学校の2年生を対象に、長期職場体験学習を実施
教育研究事業	2196	学習指導専門員、教育相談員を各4人配置し、各学校の学力向上対策への助言・指導や学校適応相談などを実施
特別支援教育推進体制事業	1723	普通学級に在籍する軽度発達障害児を支援するため、特別支援コーディネーター(1人増員)、学校サポーター11人を配置
文化創造施設整備事業	1億9916	22年度開館予定の地域交流センター(文化センター、公民館、図書館機能の併設施設)施設整備に着手
図書館管理運営事業	1億2894	図書館管理運営システムの統一による貸し出し、蔵書検索などのサービス向上や図書資料等の購入などによる読書活動の普及
家庭児童相談室運営事業	569	一関市要保護児童対策地域協議会を中心に関係機関と連携し、児童虐待の早期発見と防止に努める
骨寺村荘園遺跡整備活用事業	5020	骨寺村荘園遺跡の保存整備事業、啓発ポスター・散策マップなどの作成、講演会などの啓発活動

### 人と情報が活発に行き交うふれあいと連携のまちづくり

事務事業名	予算額(万円)	内容
道路整備事業	11億1098	市道の施設改良(58路線)、舗装新設(38路線)
道路橋りょう維持補修事業	5億9194	道路側溝の修繕や耐震補強工事など(220路線)
地域間を結ぶネットワーク網の整備	6億3800	金沢線、清水原一関線、大原波民線、石堂溝井田線などの幹線道路を整備
駅東前堀線道路改良事業	2億9252	一関駅東口へのアクセス向上を図るための街路を整備
地域おこし事業	1億4400	地域や市民が主体的に取り組む、人材おこしや産業おこしの活動を支援

### はくく 水と緑を守り育み自然と共生するまちづくり

事務事業名	予算額(万円)	内容
水質検査事業	462	河川(38河川78地点)の水質検査を実施
生ごみ減量機器購入補助金	260	コンポスト・EMぼかし処理容器・電気式生ごみ処理機などの購入に対し補助
資源リサイクル事業	1155	自治会やPTAが行う有価物集団回収活動を支援
ごみ減量化等促進対策事業	344	ごみ問題対策巡視員と連携し、分別収集、ポイ捨てのないきれいなまちづくりの意識啓発に努める
木造住宅耐震診断・耐震改修助成事業(新規)	570	昭和56年以前に建築された一般木造住宅などの耐震診断費や耐震改修工事費などの一部を助成
駒場スポーツ交流公園整備事業(新規)	6億452	用地取得や敷地造成、駐車場整備など
簡易水道整備事業	12億2605	厳美・萩荘、大原、磐清水・奥玉・小梨、川崎簡易水道等の配水管布設工事などを実施
公共下水道整備事業	18億954	一関、大原、摺沢、東山、川崎処理区の管きょ埋設工事、花泉、千厩処理区の処理施設整備など
浄化槽設置整備事業	2億4643	合併処理浄化槽設置に対する補助や市設置型による浄化槽整備

## 「健康いちのせき21計画」を策定



「健康いちのせき21計画」策定委員会

市は3月29日、市民一人一人が自らの健康づくり実践の支援や地域で健康づくりを推進する「健康づくりサポーター」の行動指針を示す「健康いちのせき21計画」を策定しました。

計画は、平成19年度を初年度とし、29年度を目標年度とする10カ年計画。今後はこの計画に沿って市民と行政が一体となり市民の健康づくりを推進していきます。

計画は、先に策定された一関市総合計画の基本方向「みんなで支え合い共に創る安全・安心のまちづくり」実施のための部門別計画という位置づけ。市民の意見を計画に反映させるため、18年9月に策定委員会(小島慎悟委員長・委員20人)を設置し、

3回の委員会を催し検討を重ねました。また、20歳以上の市民2640人と350人の中高生を対象に健康づくりアンケートを実施し、計画に反映させました。内容は▼計画策定の趣旨▼一関市の現状▼基本理念▼計画の推進方法▼領域別実施計画▼地域計画―で構成。健康増進・疾病予防の「二次予防」に重点を置き、

食生活、運動、休養など日常生活の「12の領域」に具体的な目標を設定しています。また食生活の適正化を図るため「食育」への取り組み強化や「メタボリックシンドローム」を予防するための生活習慣病対策を推進するほか、地域の特色ある活動を「地域計画」としています。

計画の全文は、各保健センターに備え付けています。また、市民の皆さんに計画の概要を理解していただくため、その要点を取りまとめた概要版を作成しました。広報本号と併せて配布しますので、ご覧ください。

◎問い合わせ先  
一関保健センター保健企画係  
☎2160

## 一層の市民サービス向上のため組織機構を見直し「骨寺荘園室」創設など

市は、多様化する市民ニーズや新たな行政課題に的確、迅速に対応するため、組織機構について見直しを行い、本年度から次のとおりとしました。

①**管財課を財政課に統合**：総務部の事務を見直し、管財課を財政課に統合。財政・行革推進・管財の3係体制としました。

## アオキ(株)立地調印 誘致企業5社目

冷めん、中華めんなど各種めん類の製造を行うアオキ株式会社(本社仙台市、資本金1000万円、青木勉博代表取締役)の大東地域への立地が決定しました。新市として5社目、18年度では3社目の誘致企業となります。

3月24日、市役所本庁で行われた立地協定調印式には、青木代表取締役と浅井市長、齋藤淳夫県商工労働観光部企業立地推進課総括課長、佐々木時雄市議会議長らが出席。青木代表取締役と浅井市長が、立地協定書に調印しました。

調印後、浅井市長は「地方経済が回復の緒に就いたばかりの中、

②**骨寺荘園室を設置**：骨寺村荘園遺跡関係業務の総合窓口として、商工労働部に骨寺荘園室(骨寺総務・骨寺振興・骨寺景観の3係体制)を設置しました。なお、文化財としての骨寺村荘園遺跡の調査研究などは、従来どおり教育委員会で担当します。

③**教育委員会事務局の見直し**：

当市への進出の英断は、地域雇用の創出や経済活性化に大いに貢献いただけたものと歓迎。青木代表取締役は「立地に当たり配慮いただいた県、市に感謝申し上げる。猛スピードで変化を遂げている食品業界にあつて、地元との協力の下、地域の発展に貢献できるよう努めてまいります」とあいさつしました。

昭和3年創業の同社は、独自の製法による各種めん類製造を主力としています。今後の販路拡大に向けた生産能力増強のため、本市への工場立地を決定しました。

同社は、(仮称)岩手工場とし

教育行政の一層の充実を図るため、▽庶務課を教育総務課と改称。同課に組織再編、学校統合などを担当する教育企画係を創設し、庶務・教育企画・教育施設の3係体制▽生涯学習課と文化振興課を統合して生涯学習文化課と改称。社会教育・文化振興・文化財の3係体制としました。

◎問い合わせ先  
本庁職員課人事給与係  
☎8186

て、大東町浜民地内の既存工場(敷地3万2137平方メートル、鉄骨造り一部2階建て1408平方メートル)を取得し生産ラインを整備。本年6月に地元採用を中心とした20人程度で操業を開始し、最終的には70人体制と計画されています。



協定書調印を終え握手を交わす(左から)齋藤県企業立地推進課総括課長、青木代表取締役、浅井市長、佐々木市議会議長